

2016年3月11日

関西学院評価推進委員会
委員長 ルース・M・グルーベル
(関西学院 院長)

2015年度関西学院大学自己点検・評価結果について

関西学院大学の2015年度自己点検・評価結果（「理念、目的、教育研究目標、方針等の設定・確認および目標、行動計画の策定」）を公表いたします。

2015年度の自己点検・評価では、2009年度から取組んできた5年間の目標が区切りを迎えたことから、2016年度から2021年度まで、6年後のめざす姿（目標）と行動計画を策定しました。

目標の策定にあたり、理念、目的、教育研究目標、方針等を構造的に整理する際に、「めざす学生像」と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の連関を意識したことや、大学における学生の成長において、正課外教育が担う役割も重要であることから「正課外教育の支援方針」を設定したことは今回の特徴的な取組みです。これまでも本学の自己点検・評価の特徴的な取組みとして実施してきた評価専門委員会（学内者と学外者で構成）による第三者評価も引き続き実施しました。

内部質保証のプロセスとして、学部・研究科等の目標、行動計画やそれらを設定した背景、課題について、大学執行部と学部長、研究科長らが共有する場としての検討会を開催したのも新たな取組みです。

さて、関西学院では、内発的で自律的な発展への循環過程（PDCAサイクル）を強化するため、認証評価と連動させた自己点検・評価を毎年行う制度（「新たな自己点検・評価」）を2004年度に構築しました。そして、2006年度には大学基準協会による第1回目の機関別認証評価を受け、「適合」の認定を得ました。

2009年度には大学基準協会の評価基準などの変更に伴い評価項目を見直すと共に、目標を再設定し新たに2013年度まで5年間の目標に取り組み、2014年度には再設定した目標の5年間の進捗状況についての総括を行いました。その間、2013年度には第2回目の機関別認証評価を受け、「適合」の認定を得ました。

ここまでの本学の自己点検・評価は、PDCAサイクルを機能させる先駆的な取組みとして文部科学省や大学基準協会、他大学等からもヒアリングを受けるなど高い評価を得ましたが、課題がなかったわけではありません。

課題を受けて、目標は社会情勢や環境の変化に応じて柔軟に対応できるよう、変更するプロセスを組み込み、各種方針等に盛り込むべき要件を提示することで、部局間で一定の統一感を持たせようとなりました。

2015年度からの自己点検・評価は、大学基準協会が基盤や達成度として示している教育の質の保証は当然のことながら、第三期認証評価の方向性にも示されている、内部質保証システムを有効に機能させることにより、教育研究の質の向上を果たそうとするものです。

これからの自己点検・評価の取組みは、高次で自律的な、教育研究の質向上に繋がられるものにならなければなりません、今年度設定した方針や目標は、その起点となるものです。

なお、報告書（帳票）をご覧いただき、お気づきの点等ございましたら、事務局までご意見をお寄せください。

以上

自己評価事務局：関西学院評価情報分析室
jikohyouka@kwansei.ac.jp